

## 7. 整備構想案の作成

### (1) 整備タイプの設定

基幹的広域防災拠点は分散ネットワーク型を基本とし、整備タイプとしてコア拠点の機能配置方式により、次に示す3タイプを設定します。

#### ■基幹的広域防災拠点の整備タイプ

整備タイプ	拠点配置		配置構成図
整備タイプ ①	★ コア拠点	名古屋空港周辺地区に配置	
	● サブ拠点	名古屋港周辺地区 愛・地球博記念公園 岡崎中央総合公園 新城総合公園	
整備タイプ ②	★ コア拠点	三の丸（名城公園周辺）地区に配置	
	● サブ拠点	名古屋空港周辺地区 名古屋港周辺地区 愛・地球博記念公園 岡崎中央総合公園 新城総合公園	
整備タイプ ③	★ コア拠点	名古屋空港周辺地区と三の丸（名城公園周辺）地区に機能を分担して配置	
	● サブ拠点	名古屋港周辺地区 愛・地球博記念公園 岡崎中央総合公園 新城総合公園	

## (2) 整備方針の設定

### ① 機能別施設規模の設定

機能別の施設規模は、他地域での類似事例をはじめ、物資の想定搬入量や支援人員の想定人数などから次のように設定します。

#### ■機能別施設規模の設定

機能	必要となる施設	規模算定の根拠等	設定規模
①減災・防災啓発機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>展示室</li> <li>図書資料室</li> <li>学習室</li> <li>災害体験室</li> </ul>	(類似事例) <ul style="list-style-type: none"> <li>東京臨海広域防災公園 防災体験学習施設 約 2,100m<sup>2</sup></li> <li>都民防災教育センター (立川 12,113 m<sup>2</sup>、本所 15,622 m<sup>2</sup>、池袋 7,710 m<sup>2</sup>)</li> <li>兵庫広域防災センター 学習棟 3,957、教育棟 1,050 m<sup>2</sup>、宿泊棟 2,700 m<sup>2</sup></li> <li>静岡県震防災センター 3,059 m<sup>2</sup></li> </ul>	延床面積 4,000 m <sup>2</sup>
②防災教育・訓練機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>研修室</li> <li>訓練室</li> <li>宿泊施設等</li> </ul>	(類似事例) <ul style="list-style-type: none"> <li>防災科学技術研究所 (敷地面積 27,4011 m<sup>2</sup>、延床面積 11,226 m<sup>2</sup>)</li> <li>兵庫耐震工学研究センター (実験棟約 5,200 m<sup>2</sup>、油圧源棟約 4,700 m<sup>2</sup>、実験準備棟約 2,200 m<sup>2</sup>)</li> <li>人と防災未来センター (敷地面積 12,387m<sup>2</sup>、延床面積 18,754m<sup>2</sup>)</li> </ul>	延床面積 4,000 m <sup>2</sup>
③防災研究センター機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災研究所 (研究室、実験室、研修・会議室、ホール等)</li> <li>通信設備</li> </ul>	(類似事例) <ul style="list-style-type: none"> <li>防災科学技術研究所 (敷地面積 27,4011 m<sup>2</sup>、延床面積 11,226 m<sup>2</sup>)</li> <li>兵庫耐震工学研究センター (実験棟約 5,200 m<sup>2</sup>、油圧源棟約 4,700 m<sup>2</sup>、実験準備棟約 2,200 m<sup>2</sup>)</li> <li>人と防災未来センター (敷地面積 12,387m<sup>2</sup>、延床面積 18,754m<sup>2</sup>)</li> </ul>	延床面積 10,000 m <sup>2</sup> 用地面積 1.0ha
④指令本部機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>本部司令室</li> <li>オペレーション室</li> <li>会議室</li> <li>執務室</li> <li>簡易宿泊所</li> <li>通信設備</li> </ul>	(類似事例) <ul style="list-style-type: none"> <li>東京臨海広域防災公園 本部棟 9,500m<sup>2</sup> (防災体験学習施設含む)</li> <li>大阪合同庁舎 4 号館 各室合計面積 918 m<sup>2</sup> (共有面積含まない)</li> </ul>	延床面積 2,000 m <sup>2</sup> (①②④合計 で 10,000 m <sup>2</sup> )
⑤ 救援物資の受入・中継・配分機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘリポート、駐機場</li> <li>荷捌きスペース</li> <li>一時保管施設</li> <li>駐車場</li> </ul>	(ヘリポート類似事例) <ul style="list-style-type: none"> <li>有明の丘地区 2.6ha (駐機数 7~9 機)</li> <li>東扇島地区 2.9ha (駐機数 7~9 機)</li> <li>兵庫県広域防災センター約 2ha (駐機数 3 機)</li> <li>大阪府南部広域防災拠点 1.6ha (駐機数 3 機)</li> <li>大阪府中部広域防災拠点 4.2ha (駐機数 13 機)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヘリポート用地 2.5ha</li> </ul>
		(物資輸送中継基地類似事例) <ul style="list-style-type: none"> <li>有明の丘地区 6.6ha</li> <li>東扇島地区 9.6ha</li> <li>広域防災拠点では 2ha 程度</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>物資輸送中継用地 1.0ha</li> </ul>
⑥ 支援部隊の集結・活動のベースキャンプ機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>駐車場</li> <li>キャンプスペース</li> </ul>	(類似事例) <ul style="list-style-type: none"> <li>有明の丘地区 コア部隊ベースキャンプ用地 2.5ha</li> <li>東扇島地区 ベースキャンプ用地 3.0ha (算出根拠)</li> <li>東南海・南海地震における愛知県への応</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ベースキャンプ用地 6.0ha</li> </ul>

機能	必要となる施設	規模算定の根拠等	設定規模
		援部隊が最大で約2万人と計画されており、その1割の2,000人を受入れ、一人当たりの面積を駐車場を含めて30㎡と設定	
⑦ 海外からの支援物資・人員の受入機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>空港、港湾</li> <li>荷捌きスペース</li> <li>執務室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存の空港・港湾施設や⑤救援物資の受入・中継・配分機能等の中で対応するため、新たに算出しない</li> </ul>	—
⑧ 災害支援医療機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ドクターヘリ</li> <li>医療活動スペース</li> <li>資機材・設備の一時保管スペース</li> <li>通信設備</li> </ul>	<p>(類似事例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>有明の丘地区 1.0ha(500～600人の負傷者の受入れが可能)</li> </ul> <p>(算出根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>1箇所での負傷者受入者数を500人、一人当たりの面積を10㎡として設定すると0.5haのスペースが必要</li> <li>愛知県の被災地内広域搬送拠点(名古屋空港)における災害派遣医療チーム(DMAT)が42チーム必要で、1チーム当たりの面積を10㎡と設定すると、本部として420㎡が必要</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害医療活動用地1.0ha</li> <li>本部スペース500㎡(屋内又はテント)</li> </ul>
⑨ 物資・資材の備蓄機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>備蓄倉庫</li> </ul>	<p>(類似事例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪府南部広域防災拠点備蓄倉庫 延床面積 南部1,900㎡、中部6,400㎡、北部2,000㎡</li> </ul>	延床面積 10,000㎡ 用地面積 1.0ha
⑩ 災害ボランティア活動支援機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>ボランティアのベースキャンプ</li> <li>本部室</li> <li>通信設備</li> </ul>	<p>(算出根拠)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>愛知県での災害ボランティアの活動人員をピーク時5,000人/日、一人当たりの所要面積を10㎡と設定</li> <li>本部の要員を40人、一人当たりの所要面積を5㎡と設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャンプ用地5.0ha</li> <li>本部室スペース200㎡(屋内又はテント)</li> </ul>
⑪ 産業支援機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災拠点としての空港・港湾施設の使用</li> <li>重機貸出し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存空港・港湾施設を活用するため、新たに算出しない</li> </ul>	—
⑫ 燃料の備蓄・補給機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料備蓄庫</li> <li>燃料補給車</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>燃料供給事業者との協定により、優先的に燃料供給を確保することを前提とし、新たに算出しない</li> </ul>	—
⑬ 復旧・復興支援機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>会議室</li> <li>専門家の待機室</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④指令本部機能を活用するため、新たに算出しない</li> </ul>	—
⑭ 災害時の政府補完機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>庁舎(執務室、会議室、司令室)</li> <li>通信設備</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>④指令本部機能を活用するため、新たに算出しない</li> </ul>	—
⑮ 他地域・海外への災害支援機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>救援物資・支援要員の集積・集結スペース</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>⑤救援物資の受入・中継・配分機能及び⑥支援部隊の集結・活動のベースキャンプ機能を活用するため、新たに算出しない</li> </ul>	—

## ② 施設の配置方針

分散ネットワーク型基幹的広域防災拠点における各施設の配置方針を次のように考えます。

- 指令本部、啓発・体験施設、教育・訓練施設は、コア施設としてコア拠点に配置します。
- 防災研究センターは、大規模な実験棟が必要となるため名古屋空港周辺地区に配置します。
- ヘリポートは、7台以上の駐機場を備えたものをコア拠点に配置し、サブ拠点では野球場など既存施設をヘリポートとして活用して配置します。
- 災害支援医療活動地は、コア拠点に配置し、広域搬送拠点は名古屋空港周辺地区に配置します。
- 救援物資等の中継基地、支援部隊ベースキャンプ地、備蓄倉庫は各拠点に分散して配置します。
- 災害ボランティアキャンプ地は、総合本部を愛・地球博記念公園の地球市民交流センターに配置し、キャンプ地は各拠点に分散して配置します。

### ■各施設の配置方針

施設名	用地面積 (ha)	延床面積 (㎡)	配置の方針
①コア施設	0.5	10,000	コア拠点(県営名古屋空港周辺地区又は名城公園周辺地区)に配置
指令本部	—	2,000	
啓発・体験施設	—	4,000	
教育・訓練施設	—	4,000	
②防災研究センター	1.0	10,000	県営名古屋空港周辺地区に配置
③ヘリポート	2.5	—	コア拠点に配置、サブ拠点は既存施設等を活用
④救援物資等の中継基地	5.0	—	各拠点に分散して配置
⑤支援部隊ベースキャンプ地	6.0	—	コア部隊をコア拠点に、その他の部隊は各拠点に分散して配置
⑥災害支援医療活動地	1.0	500	本部をコア拠点に配置 災害派遣医療チームの広域搬送拠点は県営名古屋空港周辺地区に設置 活動地は各拠点に分散して配置
⑦備蓄倉庫	1.0	10,000	各拠点に分散して配置
⑧災害ボランティアキャンプ地	5.0	200	総合本部を愛・地球博記念公園の地球市民交流センターに配置 キャンプ地は各拠点に分散して配置
<b>合 計</b>	<b>22.0</b>		